

研究者と話そう

■時間：14:30～15:30(予定)

■常設展示場観覧料が必要です。

国立民族学博物館(みんなく)の研究者が来館された皆様の前に登場します！

「研究について」「調査している地域(国)の最新情報」「展示資料について」などなど、話題や内容は千差万別！

どんどん質問もおよせください。展示場でお待ちしております。

実施日・話者・話題・場所

※都合により、予定を変更することがあります。

12月7日(日)

韓 敏 (民族社会研究部准教授)

漢族の花嫁の輿

於：中国地域の文化展示

12月14日(日)

朝倉 敏夫 (民族社会研究部教授)

キムチに聞く

於：朝鮮半島の文化展示

12月21日(日)

鈴木 七美 (先端人類科学研究部教授)

デンマークの余暇活動と民衆学校

於：常設展示場入口



輿のなかに座って花婿の家に移動する前の花嫁。
安徽省宿州市 (2008年8月8日)

編集後記

今年もいよいよ年の瀬をむかえる。忘年会のシーズンでもあるが、わすれがたい記憶としては寿入り餃子事件からはじまって、原油価格の高騰、北京オリンピック、金融危機、そしてオバマ氏の大統領当選などがあり、話題に事欠かない一年であった。民博では30周年の記念事業が無事終了し、『月刊みんなく』では編集長の交代があった。

その新編集長は手塚ファンと見えて、12月号は手塚治虫の生誕80年を記念する特集になった。わたしは手塚治虫の講演を一度だけ聴いたことがある。20年以上も前のことで、場所はサンパウロの日伯文化協会の講堂だった。その講演のなかで、手塚治虫はアトム誕生秘話にふれ、もともとは女の子のキャラクターだったことを明かされた。アトムの赤い靴はその名残であろうか。詳細は記憶にないが、その話だけはアトムと聞くと、反射的に思い出される。

ところで、本号の「歳時世相篇」によると、ルーマニアでは12月になるとブタの悲鳴があちこちから聞こえてくるそうだ。日本では何が聞こえてくるのだろうか。焼芋屋の売り声か、ジングルベルのメロディーか、それとも金融危機のあおりをくった経営者やサラリーマンの悲鳴か。何はともあれ、どうぞよいお年をおむかえください。(中牧弘允)



交通案内

■大阪・千里万博記念公園内

●大阪モノレールで「公園東口駅」・「万博記念公園駅」下車徒歩約15分。

●阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車徒歩約15分(茨木方面から1時間1本程度、日本庭園前駐車場乗り入れのバスがあります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください)。

●自家用車の場合は、万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。

●タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れられます。



次号予告/1月号特集
ウシ

2008年12月号 第32巻第12号通巻第375号
2008年12月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1
電話06-6876-2151

発行人 西尾哲夫

編集委員 久保正敏(編集長) 佐々木史郎
庄司博史 中牧弘允 三尾 稔
山中由里子

協力 財団法人 千里文化財団

制作 株式会社博報堂

製版・印刷 アサヒ精版印刷株式会社

●本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館企画連携係へ
●本誌掲載記事の無断転載を禁じます